

これはバイクモデルの**歴史を変える挑戦だ**



材質：亜鉛ダイキャスト・アルミダイキャスト・
ABS・PVC・PC・高強度ポリウレタン・
ステンレス・真鍮・スチール・シリコンゴム
商品サイズ：1/6 スケール (全長 350mm)
商品仕様：彩色済み完成品
付属品：専用工具, 4c小冊子, 取扱説明書, ステッカー

※画像はすべて開発中のモデルのものです。
本製品とは仕様が異なる場合がございます。

KAWASAKI **Z1**
1/6 スケール
ミュージアムモデル
1972年最初期型 火の玉カラー

DOHC 並列 4 気筒エンジン、そして美しいスタイリング・・・

Z1 の登場は、のちのバイク史を変えるほどの衝撃をもたらしました。

そのZ1が発売40周年となる今年、2012年にバイクのスケールモデルマーケットに新たな衝撃をもたらします。

変形トイや数々の精密フィギュアを手がけてきた「やまと」が打ち出したコンセプトは、寸分たがわぬ Z1 を 1/6 スケールで再現すること。これまで様々なバイクモデルが世に登場してきましたが、それらはディテールの省略をはじめ、数々の妥協の上に成り立ってきたものでした。ですがミュージアムモデル Z1 (仮称) では、3Dスキャニングやこれまで培ってきた様々なノウハウそして新素材を用いることにより、1/6スケールサイズで本物の Z1 を作り出すことに成功。「おもちゃ」ではない、真のバイクモデルが誕生します。



■ 忠実な資料収集

Zの専門ショップやコレクターの協力で、ミュージアムモデルZ1の設計を開始するにあたり、純正部品のみを資料として収集しました。発売第一弾となる“72年Z1最初期型”については特に希少性が高い最初期の車両(フレーム番号44番の車両を参照)のスペックを再現。極めて資料製の高いレプリカモデルとなっています。



■初期シリンダー



■タンク(内プレス)



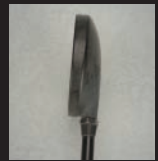
■初期フォーク(砲弾型)



■初期フランジ



■初期ヘッドライトステー



■初期ミラー

■ 正確なデータ化

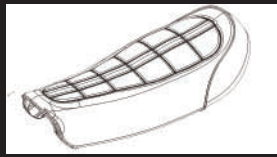
実写を寸分の狂いもなく正確に1/6スケール再現するために3Dスキャニングを採用しました。



■3Dスキャニング



■スキャンデータ



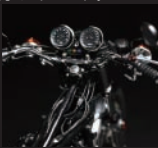
■CADデータ



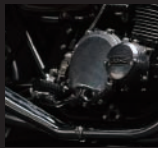
■CADデータを重ねて形状検証

■ 精密でリアルな立体化

ミュージアムモデルは、タイヤやキャブのロゴ、フレームの溶接跡など、細かなディテールも見逃さずに再現します。また、リアリティーを追求するためにブラケットを素チールパーツで、ネジ切りしてあるボルト・ナット・スタッドを特注で製作し、アクセルシャフトなど特殊な形状のボルトナットはCNマシン(切削加工機)で一つ一つ削り出しています。さらに、本物の質感を再現するため素材や表面処理にもこだわり、エンジンカバーはすべてアルミダイキャスト製でハブ研磨、メッキも実車同様にクロームメッキ・亜鉛(ユニクロ)メッキの白・黄色・黒を使い分けています。



■ハーネス類



■実車同様の輝きを再現したアルミダイキャスト製のエンジンカバー



■焼き入れ加工で黒鉄色を再現



■実車同様にメッキの白・黄色・黒を使い分け



■プレスパーツでブラケットの薄さと強度を両立



■ボルト・ナット・スタッド類は特注で製作

■ 分解組立が可能なスペック

Zを実車とほぼ同等にパーツ分割しボルト・ナット類まで機能性を持たせて再現すること、それは本物と同等の分解組み立てが可能であることを意味します。1/6モデルはサイドカバーの着脱は当然、タンク・シートなどの外装やホイールの取り外しも専用工具を使って実車同様に行えるのです。

また、万が一パーツを紛失したり、倒してパーツが破損してもパーツをそれぞれ購入できるので、実車のようにパーツの取替で修理が出来ます。



■ カスタムの発展性

分解組み立て可能なスペックは同時にカスタムパーツによる車両の拡張が可能であることを意味します。自分だけの1台をカスタムすることが可能です。カスタムパーツは、マフラー、シートをはじめ、ハンドルやホイール、ステップのほか、ドレスアップパーツなども企画。ヨシムラをはじめ、有名カスタムメーカーの協力のもと、開発を進めています。

